

令和元年予算決算委員会第3分科会会議録

1. 招集年月日 令和元年9月13日
2. 招集の場所 可児市役所5階第1委員会室
3. 開 会 令和元年9月13日 午前11時56分 分科会長宣告

4. 審査事項

協議事項

1. 予算決算委員会の提言、委員長報告に付すべき意見について

①地域医療支援事業について

- ・本市の基幹病院として位置づけられる「可児とうのう病院」だが、現在の医療機器整備助成事業補助金の見直しなど今後の補助金のあり方について、機器整備に関わらず医師の確保につながるための有効な支援ができるよう適切な対応を講じること。

②-1小中学校のICT整備について

- ・新学習指導要領において、小中学校のコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることを求めており、国の動向をみすえ遅滞なく教育環境整備を図ること。

②-2小中学校のICT整備について

- ・新学習指導要領において、小中学校のコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることを求めており、全国的に学校のICT化が進められると考えられる。可児市においても遅れることなく、まずは学校が要望している大型モニターの設置や小型端末（タブレット）の購入、また情報通信ネットワークの構築を行い、その後も計画的な推進を適切に図ること。

5. 出席委員（6名）

分科会長	田原理香	分科会委員	亀谷光
分科会委員	富田牧子	分科会委員	野呂和久
分科会委員	中野喜一	分科会委員	松尾和樹

6. 欠席委員 なし

7. その他出席した者

予算決算委員長 板津博之

8. 説明のため出席した者の職氏名

こども健康部長 尾 関 邦 彦

9. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長 伊左次 敏 宏

議会総務課長 梅 田 浩 二

議会事務局
書 記 山 口 紀 子

議会事務局
書 記 松 倉 良 典

開会 午前 11 時 56 分

○分科会長（田原理香君） それでは、これより予算決算委員会第3分科会を開催いたします。
こども健康部長より発言が求められておりますので、お願いします。

○こども健康部長（尾関邦彦君） 大変申しわけございません。

先回の予算決算委員会の決算質疑の答弁でございますけれども、川上委員のほうから、JCHOは、赤字が続けば病院をなくしたり統合したりするという方針であるが、現在も変わらないかという旨の御質問をいただきまして、私のほうが基本的に変わらないと考えておりますというふうに回答させていただきましたが、ちょっと私、いろんな情報を混同しておりまして、JCHOがそのような方針を出しているということは確認できませんので、そのような方針は承知しておりませんとの発言に訂正させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。大変失礼いたしました。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

今、こども健康部長の発言の訂正がございましたが、どなたか質疑はございますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

それでは、質疑もございませんので、この件におきましては終了とさせていただきます。
ありがとうございました。

暫時休憩といたします。

休憩 午前 11 時 57 分

再開 午後 2 時 06 分

○分科会長（田原理香君） それでは、これより予算決算委員会第3分科会を再開いたします。
9月10日の予算決算委員会におきまして、委員から発言がありました内容をもとに、本日、分科会の皆様からの御意見をいただき、令和2年度当初予算編成に生かすよう教育福祉委員会所管についての提言を行うように取りまとめていきたいと思っております。

予算決算委員会において出された意見は2つありました。1つ、地域医療支援事業について、そして2つ目、小・中学校のICT整備についてございました。これらの意見のうち、提言として取り上げるかどうかについて、一つずつ整理していきたいと思っております。

分科会長と事務局で協議して成文案をつくりましたので、取り上げることが決まりましたら、後ほど成文化していきたいと思っております。

まず、こちらの地域医療支援事業につきまして、先日、本市の可児とうのう病院について皆さんから御意見いただきました。本市の基幹病院として位置づけられる可児とうのう病院ですけれども、今後の役割の見直し等など、今後の方向性や補助金のあり方、そして2次医療なども含めた地域医療のあり方など、早急な対策が必要ではないかといったことが先日予算決算委員会の中で出されておりますが、まずこちらにおきまして、地域医療支援事業におきまして、取り上げるかどうかについて決めていきたいと思っております。

まず、こちらにおきまして皆様から御意見をお聞きする前に、先日、2次医療というお話がありました。1次医療機関、2次医療機関、3次医療機関とは何ぞやというところで、お手元に資料が配付されております。ちょっとこちらをごらんください。

暫時休憩といたします。

休憩 午後2時09分

再開 午後2時12分

○分科会長（田原理香君） 暫時休憩を解きます。

今、事務局の松倉さんのほうから2次医療機関ということについて、1次医療機関、2次医療、3次医療まで御説明いただきました。きょう取り上げております可児とうのう病院ということにおきましては、この2次医療機関に当たります。2次医療機関におきましては、手術や入院治療を必要とするなど重篤救急患者の治療を行いますというふうに書いてありますが、こちらがおわかりになったことかと思えます。

さて、そういう中で、先日、予算決算委員会の中で、この本市の基幹病院として2次医療機関の可児とうのう病院において、今、医療機器の整備助成の補助金を5,000万円ということを出しておりますが、それについて見直しを、機器整備にかかわらず医師の確保も必要じゃないかとか、いろんなさまざまな意見が出ました。こういった多くの意見を出されたというところで、提言として出したらどうだろうということの御意見が多くありましたが、こちらにおきまして、どなたか御意見ございませんでしょうか。

○分科会委員（富田牧子君） 平成25年度から、再びこの補助金が復活したんですけど、これは平成25年度の市長の施政方針なんですね。その中で、10ページのところで地域の中核病院として位置づけております岐阜社会保険病院——この当時はそう言いましたので——の医師確保につなげるため、先進医療機器整備を支援いたしますということで、この機器整備をするのは医師確保につなげるんだということをはっきり明確に言っておられるわけで、こここのときから5,000万円がまた復活したんですね。山田市長のときにやめたので、この5,000万円を、それから2年ぐらい間を置いてですかね、新しく富田市長になられて初めてが平成23年度からですから2年ぐらいしてからですね、平成25年度の方針で書いてあります。

やっぱり医師確保につなげるためと、こういうふうに書いてあるので、今の現状が、医師確保どころか医師が去って行ってしまって、1人はお見えになるということで外科はいるんですけど、本来のこの5,000万円を補助していた意味合いが大変薄れてきているということで、もう一度立ち返って、本当に医師確保が絶対に必要ですし、それなら5,000万円がいいのかという話もあると思うんですね。それはもっと検討するとしても、とにかく提言のところに書いてありますように、医師の確保につながるための有効な支援ができるということをやっぱり私たちは考えていかなきゃいけないと思いますので、ぜひこれを提言として出していただきたいというふうに思うんですけど。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

何と平成 25 年度の施政方針に、市長から医師確保につなげていくということが書かれてあるという御指摘でございました。

ほか、皆さんいかがでしょうか。

○分科会委員（野呂和久君） 富田委員がおっしゃったように、非常に可児とうのう病院というのは可児市にとっても大変重要な病院でありますし、お話のとおり、その医師不足という課題もありますので、これはかなり緊急性の高いテーマではないかと思っておりますので、ぜひ議会としても提言を持っていきたいというふうに私も賛成です。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

○分科会委員（亀谷 光君） いろんな事情があったかと思うんだけど、もう一回ここを洗い出すというか、病院、執行部、議員と、その中身をもう一回きちっと洗い出さないと、年々やっぱり持ち越してきてしまって 5,000 万円で、だから行き着くところ、ああいうふうになっておるんだけど、そこをちょっと、もう一回洗い出す必要があるんじゃないかと思うんですわ。恐らく病院のほうも、執行部のほうもどういう状況か、我々もちょっと情報不足なものですから、そこをもう一回きちっと洗い出して、話し合うというふうに持っていったらいいかなあと思うんです。でも、絶対なくてはならない病院やもんで、過去には市民病院で行こうやないかという気迫があった時代もあったですから、そういうふうに思います。以上です。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

この機会は、全員にお聞きしたいと思います。

○分科会委員（松尾和樹君） 機器整備についてという部分でいうと、自分は済みませんが専門的知識がほとんどないので、そのお金の使われ方が、その機材が本当に適しているかどうかというのはわからないんですけども、やっぱり平成 25 年度、富田委員の情報の中から、富田市長の発言で医師確保につなげていくという発言がありまして、その人という部分に関しては、やはり有効な支援ができるよう適切な対応を講じることという部分は、私自身も強く共感する次第でございます。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

○分科会委員（中野喜一君） 一応、これまで買ってしまった機器の内容がちょっとよくわからないんですが、その活用率というか、どれだけ頻繁に使っているかということをもう一度確認すべき事項だなと思いました。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

今、皆さんにお聞きしましたところ、こちらの地域医療支援事業については、ぜひ提言として盛り込んでいくべきだというお話がありましたが、じゃあこれを提言として取り上げるということではよろしかったでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

じゃあ内容におきましては、成文化していくということは後ほどしたいと思いますので、

次に進めていきたいと思えます。

小・中学校のICT整備についてでございます。

一応、学校教育課からも、このICT整備について先日御説明がありました。その後に学校教育課に行きましたところ、どういったことが必要なのか、どういったことが予算として求められているのか等々、あわせて学校教育課に確認しに行きましたところ、まず大型モニターが欲しいと。今はテレビみたいな小さいやつですよ、それがまず大型モニターが欲しい。それから、教科書にちょっとこういうQRコードが時々載っているんですね。それを映し出すための小型端末、タブレットが要る。あと、それをまたつなげていくWi-Fiの情報ネット通信が要るというこの3つが必要なんだと。とりわけまずこの3つが必要だ。だけど、この3つもなかなか予算ということがついていかなくて、まずこれがあればなあと、これからももちろんICT整備ということは言われてくるんだけど、まずはこれがあればなあとということを学校教育課の担当の方々がおっしゃっていました。

そういう中で聞いておりますと、やはり小・中学校のその大げさなICT整備というより、まずはとりわけ、今の授業で本当に有効に使っていけるところのICT整備ということが学校教育課のほうでは言われているところでございます。

そういう状況の中で、小・中学校のICT整備についての提言ということについて、提言として取り上げるかどうかということについて、皆様から御意見をお聞きしたいと思えます。

○分科会委員（富田牧子君） これまでの委員会の中で、実は市政経営計画のところに関連してこの話をしていたんですけど、私たちの反対が多かったんですけど、私も反対していたのは、電子教科書というか、そういう感じで思っていたんですけど、今お聞きしていると、すぐに必要なこういうことも整備されていないということでは、これからやっていくのにとっても大変じゃないかなあと思うので、学校のテレビも取り外したような話だったと思うんですよ。何か落ちてくると危ないので。そうすると何も目に見せるものがない。だから、その大型モニターの設置とか、その端末とかいうのは当然必要なことじゃないかと思うので、いろいろこの前は議論して私も反対をしましたが、これはやっぱり整備してあげてほしいというふうに思えます。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

前回のときは電子教材だったり、それから電子黒板だったりというような内容が出ていたかと思いますが、まさに今、本当に現場の人たちが欲しいというところは、こういったことだったということがこの前の話でわかったところでございますが、ほか皆さんいかがでしょうか。

提言におきましては、全員皆様に御意見をお聞きしたいと思えますので、順番にお聞きしていきます。

○分科会委員（亀谷 光君） 今、富田委員がおっしゃったのと全く一緒ですね。やっぱり場に合った状況を学校に、再チェックをして、もう一回協議すべきであると思えますわ。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。それじゃあ順番に、野呂委員お願いしま

す。

○分科会委員（野呂和久君） 提言として取り上げていただきたいと思います。ありがとうございます。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。ではお隣の松尾委員。

○分科会委員（松尾和樹君） 私も同様に、このことに関しては必要最低限のことだというふうに思いますので、ぜひ進めていけるように提言をしていくべきだというふうに思います。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。中野委員お願いいたします。

○分科会委員（中野喜一君） とにかく、タブレットの早期導入が急務だと思います。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

それでは、この小・中学校のICT整備につきまして、提言として取り上げるということで皆さんよろしかったでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

じゃあ後ほど成文化していきますので、ではこの2つ以外に、ぜひこれを提言として取り上げたいということがございましたら発言をお願いいたします。

ございませんか。

〔挙手する者なし〕

それでは、よろしかったですかね。

それでは、一つずつ、今、地域医療支援事業から成文化していきたいと思いますので、まずは前の画面をごらんください。

地域医療支援事業について。こちらは、私どものほうでちょっと書いてみたところです。

本市の基幹病院として位置づけられる可児とうのう病院だが、現在の医療機器整備助成事業補助金の見直しなど今後の補助金のあり方について、機器整備にかかわらず医師の確保につながるための有効な支援ができるよう適切な対応を講じることと案としては出させていただきました。

まず、この文におきまして、こうしたほうがいいのかこのままでいいとか、皆様から御意見を頂戴したいと思います。

○分科会委員（富田牧子君） これでいいんじゃないですか。

○分科会長（田原理香君） よろしいですか。100点満点ということで。

皆さん何か。では、もう一回、皆さん目をつぶって聞いておってください。

本市の基幹病院として位置づけられる可児とうのう病院だが、現在の医療機器整備助成事業補助金の見直しなど今後の補助金のあり方について、機器整備にかかわらず医師の確保につながるための有効な支援ができるよう適切な対応を講じること。

○分科会委員（富田牧子君） 「だが」というのがよくないと思います。「本市の基幹病院として位置づけられる可児とうのう病院の」というふうにしたほうがいいのかと思うんですけど、「だが」というと、すごく何か、どこかに否定的なニュアンスがありますが、私たちはさらによくなるように提言をするわけで、ちょっと「だが」はどうかなあと思いましたけど。

○分科会長（田原理香君） 済みません、「だが」を何にする。

○分科会委員（富田牧子君） 「本市の基幹病院として位置づけられる可児とうのう病院の」、
「現在」はやめて、「だが」は「の」にして、「医療機器整備助成事業補助金の見直しなど
今後の補助金のあり方について」というふうでしたらどうでしょうか。

○予算決算委員長（板津博之君） 今の富田委員に、ちょっとこうしたらいいんじゃないかと
いう話で、「可児とうのう病院は本市の基幹病院として位置づけられる」で丸。その後は一
緒で、そのほうがすっきりすると思います。以上です。

○分科会長（田原理香君） ありがとうございます。

ただいま委員長より、可児とうのう病院を一番初めに持っていくということですね。

「可児とうのう病院は本市の基幹病院として位置づけられる。医療機器整備助成事業補助
金の見直しなど」というふうが続いていくということでの御指摘がありました。大変よくな
りましたね。

皆さん、これでよろしかったでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

よろしいですね。じゃあ全員一致ということで、9月18日の予算決算委員会においてこ
のように提案させていただきます。

では、次に行きたいと思います。

小・中学校のICT整備におきましてです。

実は、上と下と両方ございます。こういう必要な環境をこうやって進めていくんですよと
いうことを書いたのが上なんです。何が必要かということがよくわからない、ということ
で、実際教育総務課、学校教育課の方とお話をしたら、まずは大型モニター、タブレットと
いうふうに具体的におっしゃったので、このほうがわかりやすいかなあというのが下の2案
でございます。皆さんの御意見を頂戴したいと思います。

○分科会委員（富田牧子君） 2案がいいと思うんですけど、長過ぎるので、「新学習指導要
領」から2段、「求めており」までは削って、「全国的に学校のICT化が進められる」、
「と考えられる」じゃなくて「られるが、可児市においてもおくれることなく、まずは学校
が要望している」というと、何かちょっと、まずは大型モニターの設置や……。

と書いたほうがいいんじゃないですか。学校が要望しているという、何か議会におねだ
りしているのかねとか、何かちょっとそうやって、快く執行部が思わないと困っちゃうので。

○分科会長（田原理香君） そうですね。

○予算決算委員長（板津博之君） 関連でというか、できれば過去の要望についても具体的な
物品について触れることは控えているので、必要なものはもう執行部として把握されてい
るので、そういったことも考慮した提言にさせていただけるといいのかなというふうに思いま
すので、お願いいたします。

○分科会長（田原理香君） 今、委員長のほうから過去の提言におきましては具体的な事柄が
書かれていないでしたよと。

○分科会委員（松尾和樹君） 過去のやり方で提言をして、本当に望むものが結果として起き

ているということであればそれでいいかなあと思うんですけど、執行部が把握しているということで、必要な三種の神器がそろうということであればいいんですけど、それがちょっとポイントがずれていて、変なほうに行くということがなければいいのかなあというところが一つ気になったんですけども。

○**予算決算委員長（板津博之君）** 基本的には各部署で予算要求をしていきますので、委員長が確認をしてこういったものが必要だということであれば、必ずそれを要望していくわけなので、そこの部分の大枠での予算措置をなささいという提言になっているので、内容的に、そこを逸脱するようなことはないということだと思います。

○**分科会長（田原理香君）** ただ、このICT整備というと、どうしても一般的に電子黒板だったり、先日も教育委員の方々との話し合いの中で、電子教材というところがすぐほかの委員からもこういったことすらできていないと、いろんなところで電子教材、電子黒板とかいう大きなことが取り上げられているので、先日もそういう話かなあと思って話し合いをして、ちょっとそこまでは学校の先生たちもそんなに要ると言っていないしというお話が出ていた中で、話をしたら実はここだったというところで、現場の声がこうやって本当に届いていくのかなあというのは松尾委員と私も思うところは一緒なんですけど、この辺はどうなんでしょう。今、委員長がおっしゃいましたようにそういうことであればいいんですけど、ただやっぱりちょっと危惧するというか懸念するというか、その辺はあります。思い切ってこうやって書きちゃったほうがわかりやすい。これが必要なんだという提言はあってもいいか、どうでしょう。済みません、委員長。

○**予算決算委員長（板津博之君）** あくまでも私は助言ですので、分科会として決定していただければそれに倣って。また、最終的には予算決算委員会の中で全体の提言の、どれを提言としていくかというのはまた検討させていただきますので、分科会として、しっかり深めていただいて決まったことであれば、それで結構だと思います。以上です。

○**分科会委員（亀谷 光君）** 分科会としては具体的にまず提案したらどうですか。それで、後はまた練ってもらえばいい。

○**分科会長（田原理香君）** 今、分科会としては具体的に書いて、それで後で必要とあらば練っていただくという御意見がございました。

ほか、いかがでしょうか。

○**分科会委員（野呂和久君）** これまで、個別のものはなかったということでしたが、一回こういう形で出してもんでいただくのも、また一つおもしろいかなあと思いますので、特にきちっとこれがということで今表示されているので、これも入れながら、分科会としては提言として出すのもいいかなあと思います。

○**分科会長（田原理香君）** ありがとうございます。

一応、提言におきましては皆様からの御意見をいただいておりますので、中野委員、お願いいたします。

○**分科会委員（中野喜一君）** とにかく、タブレットという文字は入れたほうがいいと思いま

す。なぜかといいますと、タブレットを家に持ち帰って、教科書は学校に置いておくというようなスタイルを浸透させていきたいというのが根底にあるので、タブレットは入れていただきたいと思います。

○分科会長（田原理香君）　ここでいう学校でタブレットの購入というのは、個人のタブレットを言っているわけではありません。各教室に1つあればいいんでしょうけれど、あくまでも授業を進める上で先生がお使いになるもので、まだまだそんなところでございます。教室に一つでもあればいいタブレットのタブレットでございます。

○分科会委員（松尾和樹君）　私は、先ほど申し上げたとおりで、必要なものが明確になっている以上、それは明確にしておいたほうがより効果的かなあというふうに思いまして、2案がいいかなあというふうに思っております。以上です。

○分科会長（田原理香君）　ありがとうございます。

委員長からの御助言は、本当にそうだろうと思いますが、とりあえずこの会としては、具体的なものを出していくことで、もんでいただくということとさせていただきます。

それでは、もう一度文章を見たいと思います。画面をごらんください。

全国的に学校のICT化が進められている。可児市においてもおくれることなく、まずは大型モニターの設置や小型端末（タブレット）の購入、また情報通信ネットワークの構築を行い、その後も計画的な推進を適切に図ること。

これで皆さんいかがでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

完璧、わかりました。今回も、ここでも100点をいただきました。

それでは、こちらの小・中学校のICT整備におきましての提言、成文はこのようにさせていただきます。

それでは、こちら2つ、1案と2案をもう一度朗読させていただき、終わることにいたしますが、まずはもう一度確認をさせていただきます。

地域医療支援事業において。

可児とうのう病院は本市の基幹病院として位置づけられる。医療機器整備助成事業補助金の見直しなど今後の補助金のあり方について、機器整備にかかわらず医師の確保につながるための有効な支援ができるよう適切な対応を講じること。

そして2つ目、小・中学校のICT整備についてです。

全国的に学校のICT化が進められている。可児市においてもおくれることなく、まずは大型モニターの設置や小型端末（タブレット）の購入、また情報通信ネットワークの構築を行い、その後も計画的な推進を適切に図ること。

こちら2つを決定したいと思いますが、皆さん御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

それでは、9月18日の予算決算委員会において報告をさせていただきます。

皆さん、御異議ございませんね。

〔「はい」の声あり〕

ありませんということで、本日はこれにて終わりたいと思います。大変お疲れさまでございました。

閉会 午後 2 時 40 分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和元年9月13日

可児市予算決算委員会第3分科会長